

# しあわせ

8 月 号



現世げんせをすぐべきよう様は、  
 念仏ねんぶつの申まうされむよう様に  
 すぐべし。

(法然聖人)

## 「手を合わす母」

早い。あつという間に今年もお盆である。お盆の語源はウランバナ、中国で音写されて孟蘭盆、と表記され、日本では略して「お盆」として定着した。

ウランバナは、倒懸と訳されているが逆さ吊りにされた苦しみを表す言葉。餓鬼道に堕ちて苦しむ母親を救う教えが説かれた孟蘭盆経から始まっている。

日本では先だつた人を追慕し、供養の思いを表現する行事として定着した。

浄土真宗では、安居会（あんごえ）といつて仏教を学ぶ学習会の時期とされている。仏教学者達が一週間泊まり込みで問答し研修を重ねる。

倒懸という逆さ吊りにされた苦しみを表す言葉が示す通り、苦悩の原因は正しくものを見ることができない自分の愚かさにある。

「神も仏もあるものか」自分の都合だけでしか物が見えない愚かさ。それに気付くところから幸せな新しい道は開けてくる

## 法座案内

△盆会法要▽

八月 八日(月) 昼席・夜席

九日(火) 昼席

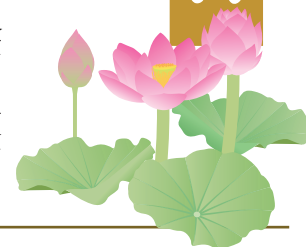
講師 福岡 義朝師  
 (本願寺派 布教師)

△法味の会▽

八月はお休みです。

※本堂内は常時換気しておりますが、参拝の際は、  
 検温・マスク着用をお願い致します。

府中町山田二丁目一五十三  
 栢原山 龍仙寺  
 電話(〇八三)二八二四八三



なんのために生まれて  
なにをして生きるのか  
答えられないなんて  
そんなのはいやだ

(アンパンマンのマーチ)

朝テレビをつけるとなぜかほぼ一〇〇パーセント「アンパンマン」が映るわが家。すぐに朝ドラにチャンネルを変えますが、その一瞬を四歳の次女が目にしてしまうと幼稚園に遅れそうになるので要注意です。ただし、やなせたかしさんの歌詞は、けっして子供たちだけに向けられているとは思えません。

どれほど豊かさを手に入れても、いつかは手放していかねばなりません。どんな愛しい者であっても、いつかは別れていかねばなりません。では、わたしたちは何のために生まれ、何のために生きているのでしょうか。それが答えられないならば、どんなに恵まれた人生も、むなしくおわるほかありません。

法然聖人の門弟に、親鸞聖人とほぼ同年齢であった禅勝房という人がいました。もとは天台宗の僧侶でしたが、法然聖人に遇ってお念仏者となった後は、郷里に帰って大工をしながらお念仏生活をされた方でした。その禅勝房に、法然聖人はこう語られています。

現世をすぐべき様は、念仏の申されむ様に  
すぐべし。念仏のさまたげになりぬべくは、  
なになりともよろづをいとすてて、これ  
をとどむべし。

この世はお念仏いただきやすいように生きていきなさい。出家の方がお念仏しやすいなら、僧侶のままでお念仏しなさい。在家の方がお念仏しやすいなら、俗人に戻ってお念仏しなさい。いずれにしても、お念仏しやすいように生きていきなさい。逆にお念仏のさまたげになるならば、どんなものでも厭い捨てて、とどめなさい。聖人はそう語られたのでした。

禅勝房はこの法然聖人のことば通りに、郷里に帰り、僧侶をやめて大工さんになって、ただお念仏をよろこぶ日暮しをされました。なんのために生まれて、なにをして生きるのか。法然聖人はその命の問いに、明快な答えをもって生き抜かれた方だったのですね。お念仏申しやすいように生きていけばいい。わたしたちは、お念仏をいただくために、この世に生まれてきたのですから……と。

先日、食卓で小学校二年生の長女が、不思議そうにこんなことを言っていました。

「これはお肉じゃろ？これはお野菜じゃろ？」

これは「ごはん」じゃろ？これはお肉じゃろ？

なんで「ごはん」をたべるっていうん？

……あつ分かった！……

ごはんの中にお肉もお魚もあるんじゃ！」  
たしかに、食卓にはご飯だけではなく、お魚やお野菜など、いろんなものが並んでいます。けれども私たちは、お昼ごはん、晩ごはんを

食べると言います。仮に朝がパンでも、朝ごはんといえます。それは、ごはんが主食だからです。どんなにお料理が並んでいても、おかずはおかず、主食はやっぱりごはんです。ご飯のためにおかずを食べるのであり、おかずのためにご飯を食べるのではない。この「なんのために」が、一番大事だと思っております。

ご飯を食べるために、おかずがある。では、そのご飯は、なんのために食べるのでしょうか。生きるために？とするならば、なんのために生まれて、なにをして生きるのでしょうか。その答えに出遇われた方こそ、法然聖人でした。

現世をすぐべき様は、念仏の申されむ様に  
すぐべし。

どんな苦難の人生で、それがお慈悲に遇うご縁となる時、むなしく過ぎるものはありません。ともにお念仏いただきましょう。わかった！お念仏の中に喜びも悲しみもあるんじゃ！と、命の問いに答えさせていただきましょう。